

平成28年6月の大阪森林便り



汚染木材でメタンガス 広島大、原発被災地で活用

広島大学は森林総合研究所などと共同で、放射性物質で汚染された稲わらや木材などからメタンガスを作る技術を開発しました。

(2016年5月2日 日本経済新聞記事から抜粋)



森のようちえん 育つ 園庭飛び出し山へ海へ

150団体突破、自治体も応援 県が運営費補助

身につく主体性

豊かな自然の中で屋外体験活動を通じて心身をはぐくむ「森のようちえん」が各地に広がっています。友達との遊びや自然体験を通じて自分で考え行動できるようにする欧州発祥の幼児教育です。

日本でも保育園や幼稚園、育児サークルなどの自然保育団体は150を突破。長野県と鳥取県が2015年度から認定制度を始めるなど、支援の動きも出始めました。

※森のようちえん：1954年のデンマーク発祥とされ、ドイツでは支援制度も充実し普及しています。

日本の場合、森のようちえん全国ネットワークの定義では「自然体験を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育の総称」で、フィールドは森、海、川、野山、畑、都市公園など幅が広がっています。

認可幼稚園・保育園、認可外保育施設、育児サークル、自然学校など様々な活動形態があり、園舎や園庭が無くてもかまいません。

大人の考え方を強要せずに子供の力を信じ、自然の中で子供自身で考え行動できるような活動をしています。

(2016年5月21日 日本経済新聞記事から抜粋)





今月の木の話

空気清浄・消臭効果

どうして森の空気はすっきりと、いいにおいなのかしら？

植物には大気中の汚染ガスを吸着する働きがあり、これが大気浄化に役立っています。

木材に含まれるフィトンチッドには、空気をきれいにしたり、嫌な臭いを消してくれる働きがあります。フィトンチッドの殺菌成分が空気をすがすがしくしてくれるのに加え、不快なおいそのものを消してくれる消臭機能も持っています。

地球上の全植物は、毎年1億7000万トンもの芳香油を空气中に放出しているという報告もあります。

(社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋)

